

長期化した COVID-19 パンデミックの影響

児童・青年の身体活動とメンタルヘルスへ

【研究のポイント】

- 2022 年 2 月 10 日、長期化した COVID-19 パンデミックの児童・青年に対する身体活動とメンタルヘルスへの影響を成人がどう見ているかを評価するため、成人を対象とした Web アンケート調査を行った。
- 小学生の子どもを持つ調査参加者は、給食時の黙食など、子どもの生活変化への適応について不安を感じている傾向がみられた。
- 中高校生の子どもを持つ調査参加者は、子どもは生活変化に適応しているようではあるが、ストレスは増加していると考えている傾向がみられた。

【研究概要】

COVID-19 パンデミックによる日常生活の変化は長期間に及んでいますが、未就学児・児童・青年への影響については、直接アンケートを取るうえで様々なハードルがあるため、ほとんど明らかにされていませんでした。

そこで長期化したコロナ禍の児童・青年への影響を知るため、東北大学病院・肢体不自由リハビリテーション学分野 奥山純子助教、東北大学災害科学国際研究所 門廻充侍助教は、2022 年 2 月 10 日に、未就学児・児童(小学生)・青年(中高生と 18 歳以上 29 歳まで)の子を持つ成人 111 名と、子を持たない成人 120 名、計 231 名に対し Web アンケートを行い、成人から見た形で調査を行いました。

児童の子どもを持つ調査参加者の 100%は、COVID-19 パンデミックのために「運動する機会が減った」と回答しましたが、中高校生の子どもを持つ調査参加者の 11%は、「かなり運動の機会が増えた」と回答しました。

また、子どものストレスについて、「かなり感じると思う」と回答した割合は、子どものいない調査参加者は 64%であったのに対し、未就学児を持つ調査参加者では 53%、小学生の子どもを持つ調査参加者では 40%と減少していました。しかし、中高校生の子どもを持つ調査参加者では 67%、18 歳以上の子どもを持つ調査参加者では 68%と上昇していました。

COVID-19 パンデミックの長期化により児童・青年期の生活変容の社会的な要請が継続する中、世代別に心理的ケアを行う必要性が明らかになりました。本研究成果は、2022 年 5 月 14 日に「ストレス科学研究」誌に掲載されました。

【研究内容】

近年、人類に長く影響を与えた感染症の中で、COVID-19 ほど長期間にわたり生活変容をもたらしたものはありません。COVID-19 パンデミックによる児童・青年の身体活動とメンタルヘルスへの影響について、世界で COVID-19 パンデミックが認められた

初期の報告はありますが、長期化における報告はほとんどありません。

今回、東北大学病院・肢体不自由リハビリテーション学分野 奥山純子(おくやま_じゅんこ)助教と東北大学災害科学国際研究所 門廻充侍(せと_しゅうじ)助教は、2022年2月10日(日本で初めてCOVID-19感染者が報告された757日後)に、成人231名に対しWebアンケート調査を行いました。

アンケートでは「新型コロナウイルスのために、今の児童・青年はどのような影響を受けていると思いますか?ご自由にお書きください。」という質問に対して、自由回答で回答を得て、KH coder^{注1}を用いて、頻出している語と年代の影響の対応分析^{注2}を行いました。また、「新型コロナウイルスの影響で、今の児童・青年の運動の機会が変わったと思いますか?」と「新型コロナウイルスの影響で、今の児童・青年はストレスを感じていると思いますか?」という質問に対し、それぞれ単一回答を求めました。

その結果、子どもを持たない調査参加者は、「修学旅行」「出る」「授業」「活動」「部」などの語を挙げたことに特徴がある一方で、小学生の子どもを持つ調査参加者では「給食」「黙る」という語を、中高校生の子どもを持つ調査参加者は「外出」「不安」という語を挙げたことに特徴がありました(図1)。

また、「新型コロナウイルスの影響で、今の児童・青年の運動の機会が変わったと思いますか?」という質問に対しては、児童の子どもを持つ調査参加者の100%は、COVID-19パンデミックのために「運動する機会が減った」と回答しましたが、中高校生の子どもを持つ調査参加者の11%は、「かなり運動の機会が増えた」と回答しました(図2)。

また、子どものストレスについて、「かなり感じると思う」と回答した割合は、子どものいない調査参加者は64%であったのに対し、未就学児を持つ調査参加者では53%、小学生の子どもを持つ調査参加者では40%と減少していました。しかし、中高校生の子どもを持つ調査参加者では67%、18歳以上の子どもを持つ調査参加者では68%と上昇していました(図3)。

結論:現在の長期化したCOVID-19パンデミックにおいて、中高校生らは状況に応じた生活を送るようになってきたものの、ストレスは増大していることが考えられました。この世代の心理的支援の重要性が示唆されました。

一方、未就学児や小学生は、長期化したコロナ禍での生活変容への適応が未だ困難と考えられます。給食時の黙食や運動の機会の減少など、感染を防ぐための生活への適応力を上げる支援を行う必要が考えられます。

【用語解説】

注1. KH coder:立命館大学の樋口耕一准教授が開発した、テキスト型データの計量的な内容分析(計量テキスト分析)もしくはテキストマイニング

のためのフリーソフトウェア。各種の検索を行えるほか、どのような言葉が多く出現していたのかを頻度表から見る事ができる。

注2. 対応分析：KH coderでは、どのグループでどのような発言が多かったかの傾向を図でつかむ分析方法。

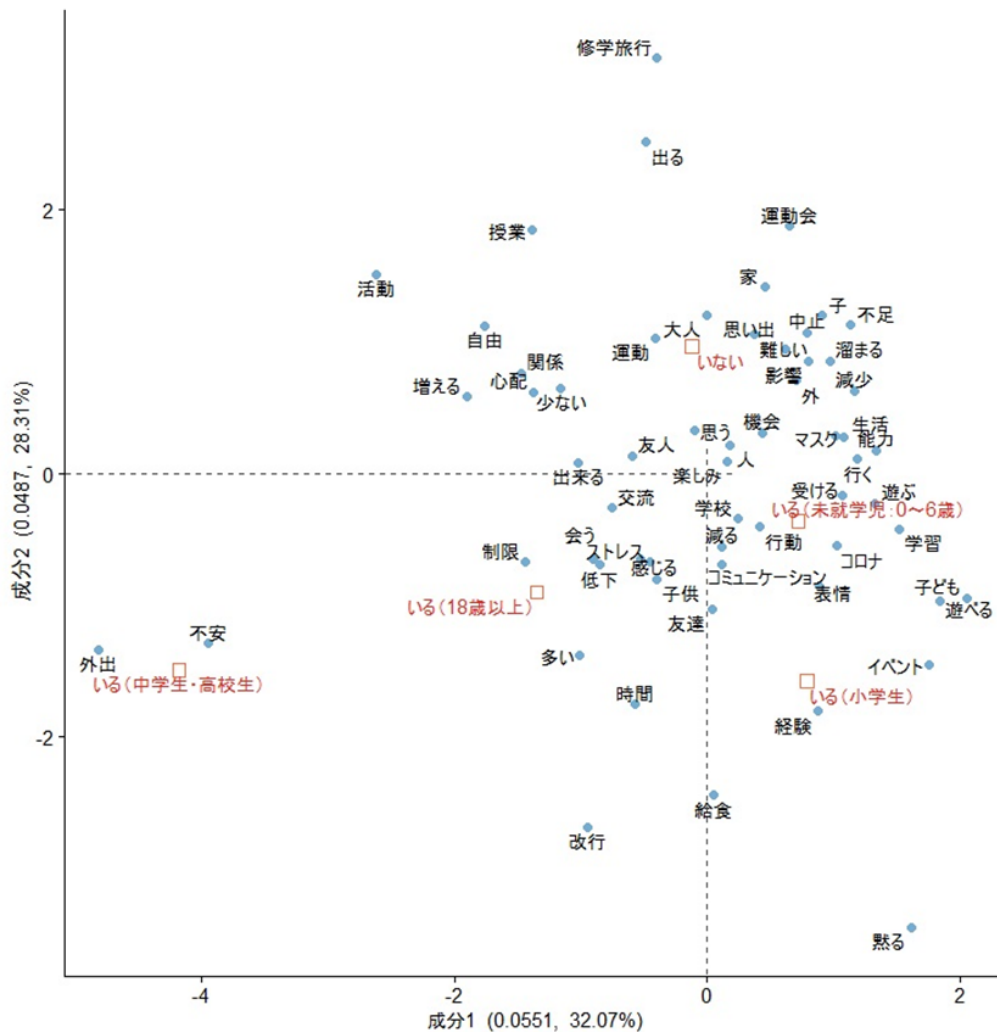


図1. 「新型コロナウイルスのために、今の児童・青年はどのような影響を受けていると思いますか？ご自由にお書きください。新型コロナウイルスの影響で困っていることがあればお聞かせください」という自由回答式の質問についてKH coder 対応分析による子どもの有無や子どもの年代別の発言分析

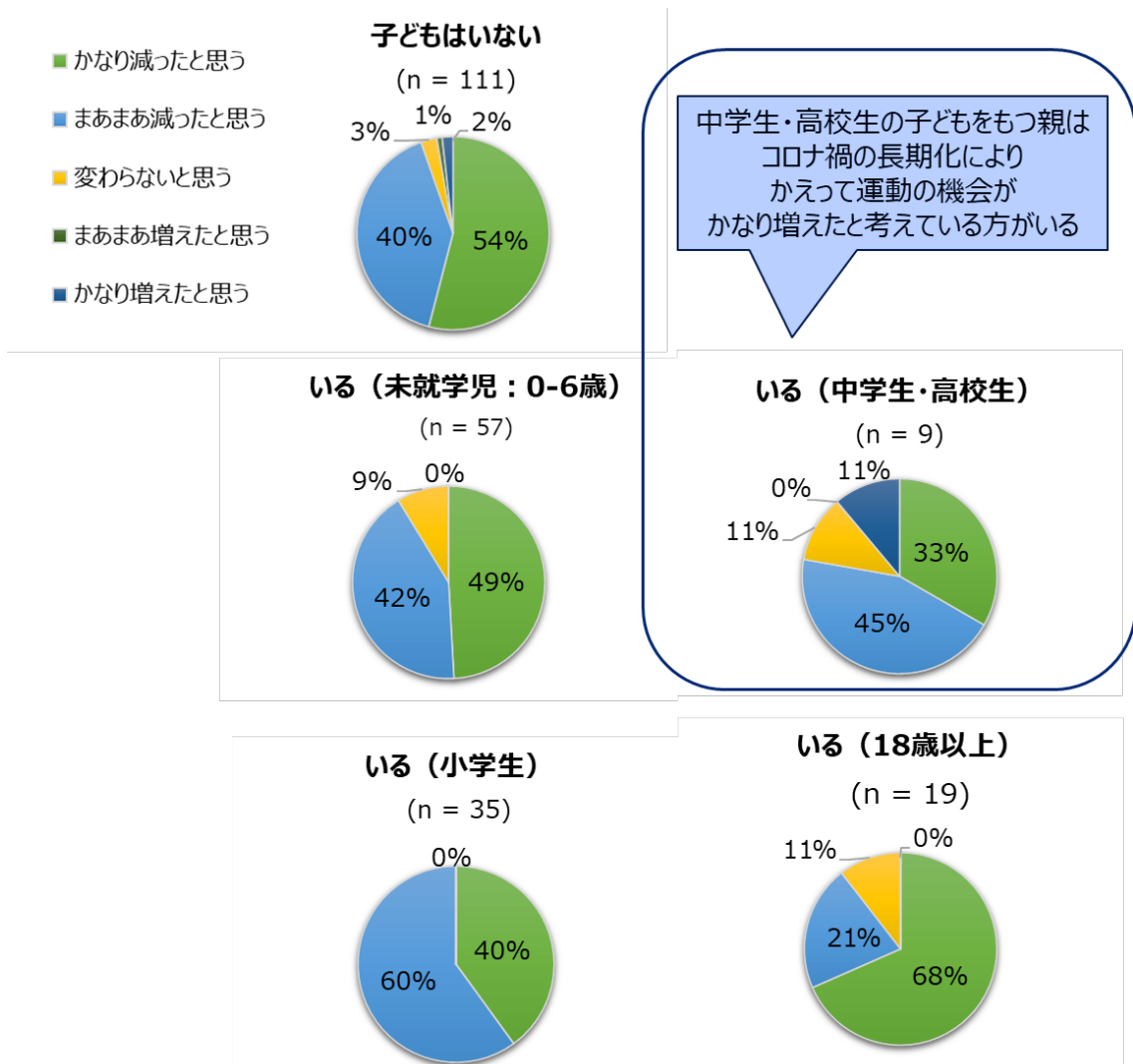


図 2. 「新型コロナウイルスの影響で、今の児童・青年の運動の機会が変わったと思いますか?」という質問に対して、子どもの有無や子どもの年代別の回答

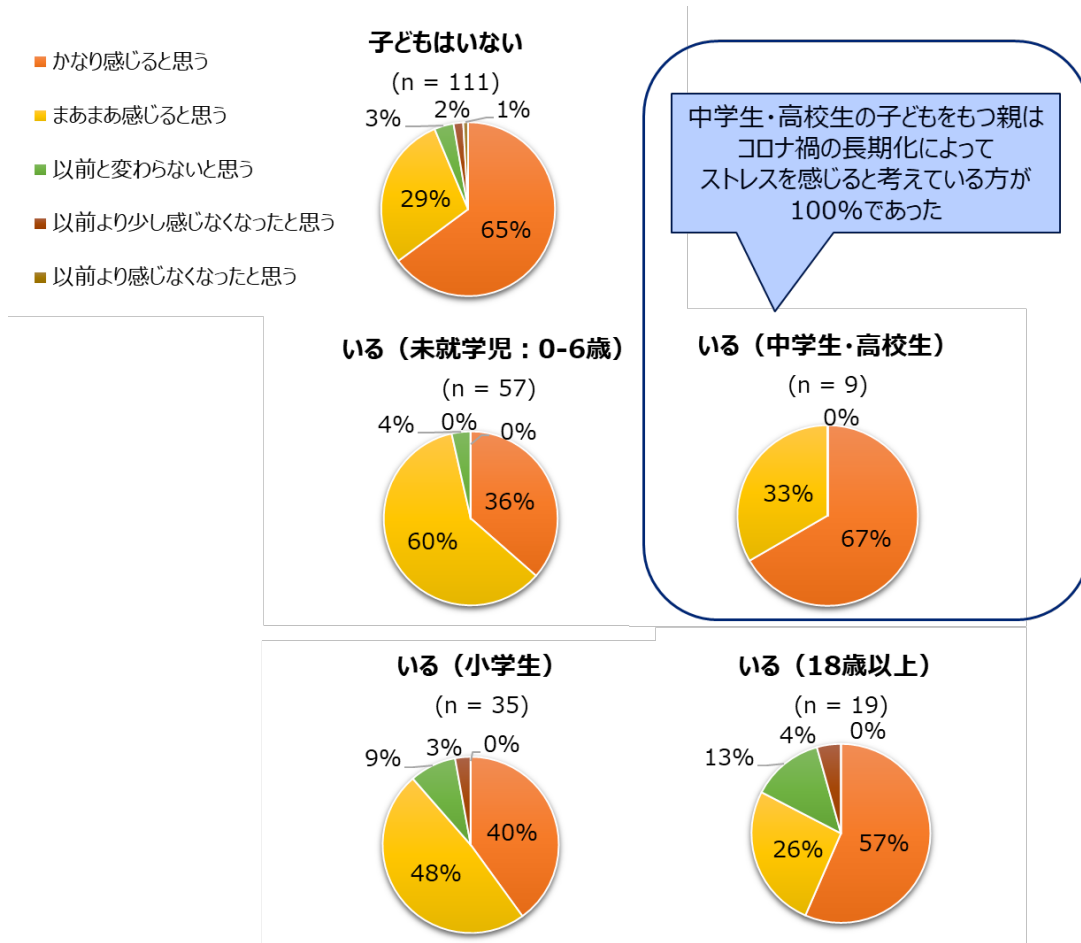


図 3. 「新型コロナウイルスの影響で、今の児童・青年はストレスを感じていると思いますか?」という質問に対して、子どもの有無や子どもの年代別の回答

【論文題目】

Title: Physical activity and mental health of children and adolescents in prolonged COVID-19 pandemic

Junko Okuyama, Shuji Seto

タイトル: コロナ禍長期化における児童・青年の身体活動とメンタルヘルス

著者名: 奥山 純子、門廻 充侍

掲載誌名: ストレス科学研究 2021 年 36 巻 p. 3-11

DOI: doi.org/10.5058/stresskagakukenkyu.2021002

【お問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学病院 肢体不自由リハビリテーション学分野
(東北大学プロミネントリサーチフェロー)

助教 奥山 純子

電話番号: 022-717-7338

Eメール: junko.okuyama@med.tohoku.ac.jp

(取材に関すること)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室
東北大学病院広報室

電話番号: 022-717-7149

FAX 番号: 022-717-8931

Eメール: press@pr.med.tohoku.ac.jp